

## はじめに

国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によれば、現在、わが国の4人に1人以上が高齢者（65歳以上の方）、7人に1人以上が75歳以上の方となっており、世界でも類を見ない超高齢社会を迎えております。今後も、高齢化は着実に進むと見込まれており、団塊ジュニア世代の方が高齢者となる2040年（令和22年）には3人に1人以上が高齢者、5人に1人以上が75歳以上と見込まれ、2040年（令和22年）を見据えた課題への対応を今から進めていく必要がございます。



また、2020年（令和2年）は新型コロナウイルス感染症が全世界に蔓延し、これまでの日常生活を大きく覆す事態が生じました。この環境の変化は高齢者の皆さまにとって重くのしかかっているため、コロナ禍における新しい生活様式を意識した取組や活動支援が大切であると考えております。

このような状況の中、人生100年時代を見据え、誰もが安心して、より長く元気に暮らせるよう、「介護」・「医療」・「予防」・「生活支援」・「住まい」を包括的に提供する「地域包括ケアシステム」をさらに深化・推進すると共に、新しい生活様式に基づく施策を展開していくことが必要となっております。

そのためには、支えあう地域社会の実現に向け、地域に根ざした活動を展開している多様な方々と連携し、それぞれの役割を担いながらマルチパートナーシップによる取組を推進することが重要であると考えております。

これらを踏まえ、藤沢市ではまちづくりコンセプトの1つとして、「共生社会の実現をめざす誰一人取り残さないまち」（インクルーシブ藤沢）を掲げ、誰もが住み慣れた地域で、その人らしく、安心して暮らし続けることができるよう、交流の場づくりや担い手づくりを推進するとともに、人と人とが世代や分野を超えて地域を共に創っていく地域共生社会をめざし、複雑化・複合化した地域生活課題を解決するための包括的な支援体制と多機関協働でのネットワークの構築をより一層進めていくこととしております。

本計画では、すべての市民を対象とする「藤沢型地域包括ケアシステム」の基本理念のもと、理想とする高齢社会像を「一人ひとりの想いに寄り添えるまち ふじさわ」とし、4つの基本理念と8つの基本目標を掲げ、施策を展開してまいります。

今後とも、「郷土愛あふれる藤沢」の実現をめざしたまちづくりに向け、すべての市民が健康で生きがいを持って暮らすことができるよう取り組んでまいりますので、より一層のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました市民の皆さま、熱心にご議論いただいた藤沢市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定委員会委員の皆さまをはじめ、ご協力いただいた関係者の皆さまに心よりお礼を申し上げます。

2021年（令和3年）3月

藤沢市長 鈴木 恒 夫